慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	An introduction to the study of prices, by W.T. Layton
Sub Title	
Author	増井, 幸雄
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.1 (1913. 1) ,p.199- 205
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130122-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

するものにして、他の語を以て言へば、法律上（事實上の權力關係は問ふ所にならず）自己の意思に反して他の制府を蒙らざるの狀態を指稱するものに外ならざれば、主權を以て國家觀念の要素なりとなす時は國家の上に國家あるを許さず。國家の下に國家あるを許さず、單一國家も所謂複合國家も實は均しく單一の國家たるなり然り而して予は本題の直接關係する範圍内に於ては「ツオルン」氏の言を以て我意を得たりと爲すもの也。（完）

批評と紹介

AN INTRODUCTION TO THE STUDY OF PRICES

by W. T. Layton

千九百十二年發行　小判百五十五頁
東京賣價　一圓二十五錢

物價論は一面に於ては價値論、價格論と共に經濟學の根本を形づくるものにして、その純理的研究は最も困難なると共に、又學問上最も重要なるものに屬す。然れども實際社會にとりて重要なるはこの半面にあらずして他の半面にあり。社會に於ける各人の所得は貨幣を以て分配せらるゝものにして、貨幣の購買力を代表せる物價が變動するときは各人の實際所得に變動を來し富の分配に影響を與ふること、卽ち是なりその是れあるが故にこそ、物價問題は單に學者によりて研究せらるゝに止まらずして、政治家實際家等の論議に上り來るなれ。近者、物價問題は世界の何れの部分にも發生し來り、論文に演說に盛に論ぜらるゝを見るも、概ねその論ずる所は物價騰貴の趨勢と、その原因と、その救濟策との外に出でずして、未だ物價の變動が分配上に如何なる影響を及ぼすやをも併せて系統的に論述したるものあるを見ず。然るに英人レートン氏は最近「物價論」（W. T. Layton: An Introduction to the Study of Prices. 1912）なる一書を著して十九世紀に於ける物價史を研究し物價變動の原因及びその分配上に及ぼしたる影響を論述せり。四六版百六十餘頁にして分量の上より云へば素より大著と云ふこと能はざるも、僅少なる頁數の中によくこの問題を學理及び實際の兩方面より說明して甚だ要を得たり。左に簡單にその内容を紹介せむ。

元來本書は著者が昨年倫敦「ユニヴァシティー・カレヂ」に於てなしたるユユーマーチ氏紀念講

演の內容を收めたるものにして、第一章より第九章に至る本論百十一頁の外に、統計其他の學術的議論を附錄として細字を以て四十餘頁に收めたり。數十個の統計表の外に數葉のダイアグラムを挿み、卷末には一八〇〇以來の物價曲線と金生產曲線とを表はせる大附圖を添えて以て所論の理解に便せり。

さて、第一章は『問題の說明』と題し、本書に於て論ずべき問題を提出してその性質を述ぶ。曰く、物價騰貴は各國に於てそれ〴〵特殊の事情を以て說明せられ居るも、貨幣の購買力の低下てふ普遍的原因を以てせずんば眞に之を說明すること能はず、故に問題は第一、貨幣の購買力を決定する一般的原因を發見し、第二、物價の變動が或る階級に及ぼす影響如何を研究するにありと。かくして著者は問題を理論及び歷史の兩方面より研究せむとしたるなり。第二章は『物價の一般的平準に就て』と題して物價の理論を試む。後章に物價平準の變動の各階級に及ぼせる影響を論じたる歷史的研究の基礎たるものにして、重要なる文字なり。先づ物價の意義を說明し、相對的物價變動と一般的物價變動とを區別し、物價變動の影響に論及して曰く、物價の變動が齊一なるときは社會の諸階級に何等の影響をも及ぼさず、その不齊一なるとき始めて影響あり、大體に於て、物價騰貴するときは勞働者階級は不利を蒙り、雇主階級は利益を受く他の半面に於て、物價騰貴は商業繁昌を表はせるものにして、新なる方面に生產を開拓するの利益ありと。次に物價騰貴より受くる影響を標準として種々なる所得收得者を分類したる一表を揭げ以て物價變動の影響を一目の下に瞭然たらしめたり。第三章は題して『十九世紀に於ける卸賣物價指數』と云ふ。論ずる所自から二部に分れ、前半に於ては指數そのものに就て、理論的に述べたるものにして指數を用ひて物價の

騰落を言ひ表はす方法を述べ、次に卸賣物價指數と小賣物價指數との關係に言及して小賣物價指數こそ眞に貨幣の購買力を示すものなりとの疑問起らむも、實際にこの種の指數を得ること難きのみならず、小賣物價指數と卸賣物價指數とを比較するときは兩者の變動は程度方向共に大體一致することを論じ貨幣の購買力の眞の表示としての指數の缺點を擧げたり。後半は卸賣物價指數に表はれたる十九世紀に於ける物價の趨勢を歷史的に論ずるものにして、先づ一八二五年の好景氣並に尋で起れる恐慌の歷史よりして好景氣は金の價値に永久的の影響を與へたるものにあらずと論じて永久的の原因は之を他に求めざるべからざることを暗示し、物價曲線の趨勢を研究し、金の產出と物價との間に關係あることを示し、金の生產は今後益々增加すべしとの專門家の言を引きて物價騰貴の勢の底止せざるべきことを指摘して章を結べり。第四章は『物價に關聯して貨幣學說を論ず』と題す。貨幣の購買力を決定する諸要素を分析研究せむとするものなり。曰く物價の平準は(一)通貨の分量と(二)取引の分量との如何によりて定まる。前者は信用制度の性質により、又金貨及び小額貨幣の分量と流通の速度とによりて定まり、後者は主として資本と勞働との生產力の如何により又貨物が人手を經る度數の如何によりて定まるものなるを以て、貨物、貨幣の兩方面より研究せざるべからずとて、兩者に影響する諸條件を表示し、金と信用貨幣と貨物との增加を種々に結合してそれ〴〵の場合に起るべき影響如何を論じたり。

以上は、第三章の後半部を除くの外、悉く理論的研究のみなりしも、第五章以下第八章までは十九世紀に於ける物價の騰落を四期に分つてその原因と影響とを論ずるものなり。物價曲線の方向の轉換期に於ける各五年平均の物價指數

並に各期間の間の差を示せば左の如し。

期間	指數	差
一八二一—二五	一五四	(—)二五%
一八四六—五〇	一一六	(+)二〇%
一八七一—七五	一三八	(—)四〇%
一八九四—九八	八二	
一九〇六—一〇	一〇二	(+)二五%

著者は大體右に從つて二個の物價騰貴時代と二個の物價下落時代とに分つて研究せり。

第五章は『一八二〇—四九年の物價下落』と題す。『この時期は金の供給減少し、加ふるに信用貨幣も充分に膨脹すること能はざりしに、關稅その他の交通上の障礙の撤去せられしがために生產業發達し取引の分量は增加せり、かくて物價は下落せしも勞働社會には怨嗟の聲滿てり、何故ぞや、曰く、勞働者間未だ組織なく、勞銀は寡少なるにも拘らず、食料品は穀物條例に妨げられて下落すること極めて僅少なりしを以てなり』と。第六章『一八四九—七四年の物價騰貴』。『この時期に於ては金の年產額增加して以前の七倍に達し盛に貨幣に鑄造せられたるのみならず信用貨幣も增加したるに、一方生產は金利の低廉と關稅改革とに刺戟せられて大に發達し、通貨と生產と兩々相並んで增加して以て七〇年代の好景氣を見たり、物價は騰貴せしも食料品の代價は騰貴せず、加ふるに勞銀も亦增加したるを以て勞働階級の生活程度は引上げられたり』。著者はこの時期に於ける生產の發達は金の發見に基けるにあらずして科學の進步、機械使用の增加、交通の發達等に基けるものなりと云へり。第七章は『一八七四—九六年の物價下落』を論ずるものにして、この時期に於ては獨米兩國に於ける金貨本位制樹立のために金の需要は增加せしも、金の供給は却て減少せり、然るに一方生產は頗る發達し取引は益々世界的となりて貨幣の需要增加したるを以て通貨の相對

的不足のために物價は下落せりと述べ、諸國に於ける生產業の發達を論じ、分配に言及して物價下落のために實際勞銀の增加せること並に勞働組合の普及せることを指摘せり。右の物價騰貴は通貨の不足に基けるものなるを以て、金の外に銀をも本位貨幣とせば以てこの不景氣を救濟することを得べしとの複本位論者の出現を見たる次第なるが、著者は複本位制度に必要なる國際的協定の實行不可能なること、取引の增加するに從て銀の便利は益々減少すること、銀の本位貨幣たるの資格を除きたるがために物價下落すと云ふもそは第二次的の影響に過ぎざることを指摘し最後に『抑〻複本位論は物價の下落せざるを可とすとの前提の上に立てるものにして吾人の見解と相反す、現今金は多きに過ぐ、複本位論の如き、今や單に學問上の生命あるに過ぎざるなり』と論じ去れり。第八章、題して『一八九六—一九一〇年の物價騰貴』と云ふ。この期間、好景氣不景氣の連續を通じて物價が螺旋的に上騰の傾向を示したるは金の生產增加と關係あるものにして、世界に於ける金の蓄積高は一八九五年當時に比するときはその後五割の增加を來し、印度英獨米の諸國に吸收せられ信用貨幣も增加して世界に於ける購買力の增加したるがために物價は騰貴せしなりと云ふ。生產の狀態と諸國に於ける物價騰貴の比較研究とをなしたる後、分配に言及し勞働階級の消費に係る貨物の代價は騰貴すること少なかりしも貨幣勞銀の增加遲緩なりしを以て實際勞銀は減少せしが、勞働時間の短縮ありて幾分之を相殺したりと述べ、この實際勞銀の減少と知識の普及とは勞働社會の不安の根底に横はれるものなりと結び一九一一年の物價騰貴は商業上の周期の頂上に近きたると大旱魃ありしとによるものなりとの補論を添へたり。

第九章は『摘要及び結論』を載す。貨幣の購買

力の決定原因を概説し、物價と生産力との關係に就ては長期を取りて見るときは後者は前者の如何によるよりも寧ろ科學及び教育の進歩如何によることの多きこと、物價と分配との關係に就ては物價の騰落のみが勞働者の分配狀態を定むるものにあらざるも、他の變化なしとするときは物價下落は勞働者にとつて利あること、物價の變動は一般的變動よりも相對的變動こそ實際社會にとりて重要なること、並に國利民福は物價の如何によるものにはあらざれども猶その增進は物價が不變なるか又は少しく低落に向ふ場合に最も速なることを述べ、さて目今の物價騰貴を救濟するの策如何を論じて結論となせり、曰く、その方法としては(一)ジェヴォンスの計表本位制を始めとして種々なる形を以て提唱せられたる所に從つて、指數を用ひて長期の契約を制禦し以て所得を現在よりも一層速に物價に適應せしむるの案に出づるか又は(二)フィッシャーの主張に係るかの各國協定して金貨をして人爲的價値を保持せしむるの案に出づるの外なし、兩者共に多少の短所はあるも、金の生産にして減少することなき限り、是等兩案は實際上の價値なしと云ふべからずと。

本論は右にて終れり、殘る所は統計と學術的議論とを載せたる附錄A乃至F、是なり、是又簡單に一覽せむ。附錄Aは『物價指數に就て』と題す、第三章の補論にして指數の作り方を述べ、貨物の重要の度を斟酌する所謂 Weighting System と之を斟酌せざる Unweighting System とを比較して充分に多數の貨物を採る示すこと、ときは長き期間に於ては後者は正確なる結果をを述べ、挿入せる指數表の說明をなせり。附錄Bは『世界に於ける金の生産に就て』と題して、採金法の進歩並に、金生産の將來に對する豫測を述べ、附錄Cは『物價の循環運動』と題して物價論を試む。曰く、勞銀の增加は圓を

周る一循環運動にして一度之を引き上ぐるも程なく再び之が引上げを必要とするに至るべしと論ずるものあるもかゝる運動は通貨の自由に膨脹することを必要とし且つ富の分配は一定して動かすべからざるものなりとの假定に立つ、而してこの假定は短き期間に就ては全然當て嵌まらずして、大なる所得を得る階級は小なる所得の階級の利益を害して自己の利益を增加するものなりと。附錄Dは『貨幣統計に就て』と題して各國に於ける通貨、預金、中央銀行の準備金並に割引步合金塊の輸出入等に關する十一箇の統計を收めて之に說明を加へ、附錄Eは『生産の統計』と題して農産物及び鑛産物の生産及び消費に關する統計を載せたり。而して最後の附錄Fは『勞働者階級の發達を證明する諸統計』と題して貨幣勞銀、實際勞銀、失業、及び失業を斟酌せる實際勞銀の指數表と、之を曲線に表はせるものと、一人當りの貨物消費額と、勞銀支拂高と、人口とに關する統計を掲げたり。

右にて物價論の頁は盡きたり、されど著者が常に分配なる觀念を頭に置きて議論を進め、分配の研究に多大の勞を取られたるの嬉しさは終に盡きず。右紹介の筆を擱くこと爾り。（增井）